

# < どの機能を使って売上予測するのか分からない方 >

## < 予測の仕方 >

### 手順① 現状分析

1. 相関分析によって、売上に影響を及ぼす売上規定要因（営業回数など）を把握する
2. EPA法によって、売上データの傾向変動（TC曲線）、季節変動（S）を把握する
3. トレンド予測によって、売上げデータのトレンド（T）を把握する

### 手順② 予測モデル式の作成

求めたT、S、売上に影響を及ぼす規定要因を用いて、時系列重回帰分析を行い、モデル式を作成

### 手順③ 予測

予測モデル式に将来のT、S、影響を及ぼす要因を代入し、売上の予測値を算出

## 「マルチ予測ソフトウェア」の機能

## ▼ 「マルチ予測ソフトウェア」を使って 予測 を行う方法は・・・

TCI、TC、S、I、Tを算出し、重回帰・1類・拡張型1類によって、予測モデル式を算出

### 予測はこの機能で

現状分析 & 予測モデル式の  
作成 & 予測値 が 一度の  
処理で自動的に算出される！

※ 操作方法はアイスタック HP の  
「簡単操作ガイド」を参照

時期形態	時期数	Sの算出	TCの算出
年次、No		-	3項加重移動平均
月次	2年未満	-	3項加重移動平均
	2年以上3年未満	月別平均法	12項加重移動平均
	3年以上	EPA法	EPA法
四半期	3年未満	-	3項加重移動平均
	3年以上	EPA法	EPA法

方法② 「重回帰・1類・拡張型1類」 ⇒ アンケート回答データ、店舗別データについて、  
予測モデル式を作成する機能

## ▼ 売上データの変動を把握する機能は、現状分析 [TCSI分離][傾向分析]

方法① 「EPA法」 ⇒ 一度の処理で T C I, T C, S, I を算出

 便利な機能

方法② 「月別平均法」「加重移動平均法」「トレンド予測」 ⇒ 順番に作業を行い算出

### ■ T、S、T C I、T C、I を順番に算出する方法（青字はマルチ予測ソフトウェアに搭載）

求める変動	方法No	解析手法	解析データ	得られる結果
T トレンドT（傾向線）	方法①	回帰分析	T C S I	T
	方法②	トレンド予測	T C S I	T
S 季節変動指数	方法①	月別平均法	T C S I	S
	方法②	E P A法	T C S I	T C I、T C、S、I
T C I 季節変動調整済み系列	方法①	$T C S I \div S$	T C S I、S	T C I
	方法②	E P A法	T C S I	T C I、T C、S、I
T C 季節不規則調整済み系列	方法①	加重移動平均法	T C I	T C
	方法②	E P A法	T C S I	T C I、T C、S、I
I 不規則変動	方法①	$T C I \div T C$	T C I、T C	I
	方法②	E P A法	T C S I	T C I、T C、S、I

※ 解析データの形態（月次、四半期、年など）、データ時期数によっては選択できない場合があります。

マルチ予測ソフト 機能	月次	四半期	年次	日別
月別平均法 S	24ヶ月～	8期～	×	×
加重移動平均法 TC（サイクル3）	5～23ヶ月	3期～7期	3年	○
加重移動平均法 TC（サイクル12）	24～35ヶ月	×	×	○
E P A法 S	36ヶ月～	12期～	×	×

## ▼ 売上規定要因を把握する機能は、現状分析 [基本解析]

解析手法	マルチ予測ソフト 機能	内容
時系列相関係数	基本統計量・相関係数	目的変数 ⇒ 売上データ 説明変数 ⇒ 影響を及ぼすデータ 👉 相関係数が 0.2以上は、予測モデル式を作成する時に説明変数のデータとして使用
タイムラグ相関	タイムラグ相関 ※	

※ 効果（売上増）がその月でなく、1ヵ月先に現れるといった場合に、月数をずらして見る相関